

血をふいた後のティッシュをどうしていますか？

最近、出血している傷を拭いた後のティッシュを、そのままゴミ箱に捨てる人を見かけます。みなさんは、自分の血液を、自分以外の人に触らせてはいけないことを知っていますか？

自分や周りの人の健康のため「**血液を、さわらせない！ さわらない！**」を実行しましょう。

なぜ、血液をさわってはいけないのか

ケガをした時に傷が腫れ赤く腫れ、熱が出たことはありませんか？これは、傷で増えた病原体が、血液によって全身に運ばれたためです。このように、血液は体に害を及ぼす病原体を含んでいます。あなたが病原体のいる血液に触れると、病原体が傷や粘膜からあなたの体の中に侵入し、感染してしまいます。これを血液感染といいます。

病原体に感染した状態には、2種類あります。

- ・「顕性感染」……症状が出る状態
- ・「不顕性感染」……症状が出ていない状態

※症状が出ていない不顕性感染も血液に病原体が含まれるため、**人に感染する可能性**があります。

つまり、、、見ただけでは、病原体のいる血液かどうかを判断することはできません。また、症状がないため、感染を自覚していない場合もあります。

誰のものでも、自分以外の血液に直接触れることは絶対にやめましょう。

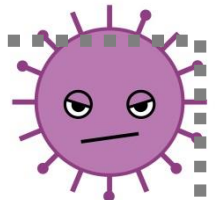
血液だけを避けていれば大丈夫？

体からの分泌物で、病原体を含むものは、血液だけではありません。

例えば、唾液・精液・膣分泌液などがあります。また、分泌物には、目に見えなくても血液が混ざっている場合があります。

**傷や粘膜は絶えず分泌物が出ており、触れることで感染症を起こす可能性があります。**

★触れると感染の危険があるもの



## ①汗を除く分泌物

(血液・唾液・精液・膣分泌液など

※月経時(生理中)の血液も含まれます)

## ②排泄物

## ③傷のある皮膚

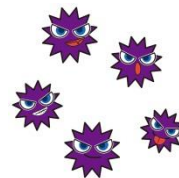
## ④粘膜

触れる場合・触れる可能性のある場合  
絶対に、直接触れないよう予防する！

## 「血液を、さわらせない！ さわらない！」（具体策）

けがの処置	処置の前後に流水・石鹸による手洗いをして、清潔にする
	自分の怪我以外の処置をする場合、直接血液や傷口に触れないよう、ビニール手袋などを装着する
	血液や分泌物に触れたもの・触れた可能性のあるものは、ビニール袋に入れ、封をして廃棄し、他の人が触ることのないようにする
治りかけのけが	きちんと、ばんそうこうなどで覆い、他の人に傷が触れないようにする

### 血液を介して感染する病気の例



#### HIV 感染症：HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染した状態のことです。

国内患者：2万3015人（2013年末のHIV感染者・AIDS患者数）増加傾向です

潜伏期間：数年～十数年(平均10年間)

感染経路：性感染(性行為の感染)、血液感染、母子感染(妊娠中や出産・母乳の感染)

ウイルスは血液、精液、膣分泌液、母乳に多く含まれます。唾液、涙、尿で感染は起きません。

症状：初めは無症状、又は、発熱や頭痛等の症状が現れます。その後、症状がほとんどない状態が数年～十数年続きますが、その間にHIVが免疫機能を弱らせ、健康な人なら何でもない病原体で病気にかかるようになります。

この状態をAIDS(後天性免疫不全)といいます。

治療：根治することはできないが、AIDSを発症するまでの期間を延ばすことができます。

症状がない状態でも人にうつす力があるため、無自覚のHIV感染者が問題となっています。

#### B型肝炎・C型肝炎：ウイルスによって肝臓に炎症の起こるウイルス性肝炎の1つです。

一時的な感染に終わる急性肝炎と、ほぼ生涯にわたり感染が継続する慢性肝炎に分かれます。

##### ★B型肝炎（原因：B型肝炎ウイルス 潜伏期間：1～6か月）

国内患者：120～150万人程度といわれています。

感染経路：血液を介して感染するため、主な感染経路は性感染、血液感染、母子感染です。

症状：発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐、濃色尿、黄疸(白目や皮膚が黄色くなる)

治療：ウイルス療法、肝庇護療法、免疫療法など

##### ★C型肝炎（原因；C型肝炎ウイルス 潜伏期間：2週間～6か月）

国内患者：200万人程度といわれています。

感染経路：血液を介して感染するため、主な感染経路は、血液感染・母子感染です。

最近ではピアスの穴あけなどによる感染がみられます。C型肝炎ウイルスの感染力は弱いため、性交渉や体液で感染することはほとんどありません

症状：全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐、右季肋部痛、上腹部膨満感、濃色尿、軽度の黄疸

治療：抗ウイルス療法、肝庇護療法を症状に合わせて選択します。

進展：慢性肝炎になると3～4割の人が肝硬変、更に肝がんに移行するといわれています。



#### 参考文献

株式会社メディックメディア 病気が見える vol.6 免疫・膠原病・感染症 第1版

#### ウェブページ

職業感染症制御研究会、神奈川県鎌倉保健福祉事務所、国立国際医療研究センター肝炎情報センター  
エイズ予防情報ネット平成25年度エイズ発生動向年報、肝炎net